

ヴォリュームアキュライザーの導入(6)

－Leak Point 1 への適用－

1. 始めに

今回は、第三のリスニングルームのシステムのプリアンプである Leak Point 1 に適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、第のリスニングルームの下記システムを使用して、デジタル音源で VRA-7 の効果を確認します。第三のリスニングルームの現状は、[第三リスニングルームの整備\(3\)](#)で報告しています。

パワーアンプの Pilotone 5881pp にはヴォリュームはなく、音量はプリアンプの Leak Point1 のみで行います。この Leak Point1 のヴォリュームに VRA-7 を貼りつけます。

CD 再生

Marantz DV-9500→Leak Point1→Pilotone 5881pp→TANNOY III LZ

BS 放送録画

DMR-BZT910→Leak Point1→Pilotone 5881pp→TANNOY III LZ

CD はいずれも演奏会で聴いている下記を試聴しました。

Harumonia mundi HMM925296

ベートーヴェン ピアノと管楽器のための 5 重奏作品 16

アンサンブルディアローギ

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1

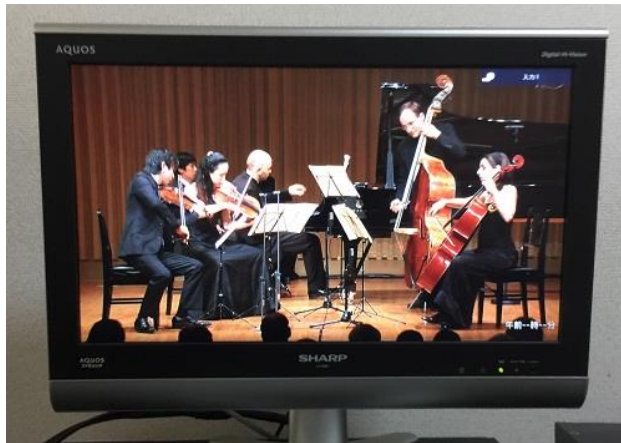
フランソワ＝フレデリック・ギィ (ピアノ)

グザヴィエ・フィリップ (チェロ)

BS 放送録画は下記を視聴しました。

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

アウラータクインテット



ハイドン チェロ協奏曲第1番（編曲版）
ウェン・シン・ヤン・N響メンバー



3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

Leak Point1のヴォリュームにVRA-7を貼る段になって問題が発生しました。

Leak Point1のヴォリュームの面は平滑でなく、内側が凹んでいます。そこで、両面テープを凹みに合わせて切り、2枚でかさ上げして凹みを埋めたのち、VRA-7を貼りつけました。従って、VRA-7は3枚の粘着テープを介在してヴォリュームの面に接していることになります。





このように余分なテープを介していますので、効果が危ぶまれましたが、結果は、次のようになりました。

もともとこのシステムは、時代物の **Pilotone 5881pp** の特性が表にでて、闊達な鳴り方をしますが、大づかみで少し肌理が粗いところがあります。

VRA-7 をヴォリュームに貼りますと、ピアノと管楽器のための 5 重奏の CD は、古楽器アンサンブルの演奏ですが、ピアノフォルテやナチュラルホルンの質感がしっかり出てきます。

チェロソナタの CD は、チェロのボウイングの様やピアノの打鍵のアタック感が明晰になります。

鱒の BS 放送録画は、ピアノがクリアーになり、コントラバスのボウイングの様がしっかり出てきます。

チェロ協奏曲の 4 台のチェロのための編曲版はチェロの擦弦音やボウイングの様がしっかり出てきます。

もともと **III LZ** は容積も小さく、箱鳴りを活かす作りですが、チェロやコントラバスの分離が向上し、箱鳴りが気にならなくなり、一回り大きい **TANNOY** のシリーズになった印象です。また、**Leak Point1**、**Pilotone 5881pp**、**TANNOY III LZ** はいずれも時代物ですし、**Marantz DV-9500** と **DMR-BZT910** も最新機種ではありません。どちらかというとなostalジックな **TANNOY III LZ** の鳴り方が一転してフレッシュになったと言えます。

4. まとめ

時代物のシステムにおいて、**Leak Point1** のヴォリュームへの変則的な **VRA-7** の貼り方でしたが、フレッシュな音に替わりました。

以上